



地球環境問題学ぼう

NGO国際協力講座開幕

岡山

環境NGO(非政府組織)

あいさつ。

のための国際協力講座「瀬戸内の環境から考える地球環境と国際協力」(環境事業団地球環境基金部主催)

が十一日、岡山市奉還町の岡山国際交流センターで二日間の日程で始まった。

広島、香川など県内外から九十人が参加。環境事業団の糸井克己地球環境基金部長が「地球温暖化、熱帯雨林の減少など、私たちは地球規模の環境問題に直面している。ぜひ今回の研修で理解を深めてほしい」と

青山敷岡山大副学長が

「地球環境問題の構造と市民の役割」と題して講演。

「近年の環境問題は社会システムから生み出されており、問題の発生源が特定企業などに限られていた六〇年代の公害に比べ、被害者との関係があいまい。だからこそ市民一人ひとりの地球を変えようとする活動が大事」と話した。

環境庁水質保全局の浅野能昭瀬戸内海環境保全室長から自然海岸が減り続けて

いる瀬戸内海の現状と、今後の国の保全方針が紹介されたほか、フィリピンのNGOや国際医療ボランティア団体AMDAの活動報告があった。

最終日の十二日は同市奉還町のオルガで、四分科会とパネルディスカッションがある。

講座は、同基金部が平成九年からスタートした研修講座「地球環境市民大学校」の一部門。平成八年に和解した倉敷公害訴訟原告団が中心になって設立した「水

島まちづくり財団設立準備会」などNGO三団体一人人でつくる実行委員会が企画・運営に当たった。